Pesticide Science Society of Japan　日本農薬学会

PSSJ NEWS LETTER

http://pssj2.jp　2019年　第2号　令和元年5月20日

CONTENTS

■ 活動報告・各種会議議事録
■ 第44回通常総会
■ 会員動静
■ 学会関連カレンダー
■ 学会主催会議等の詳細
■ 残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018出版のご案内
■ 講師派遣のご案内

平成30年度　第3回常任評議員会議事録

日　時：平成30年12月8日(土) 13:00～17:15
場　所：日本植物防疫協会　地下会議室
出席者：出席者　17名（含第44回大会組織委員会事務局長），欠席者　1名

議事：

I.　平成30年度第2回常任評議員会議事録の確認

II.　経過報告および議案

1. 財務関係
   - 平成30年度収支決算（1月1日～12月31日）について報告があった.
   - 平成31年度予算案について報告があった.
   - 平成31年度学術小集会収支予算案について報告があった.
2. 編集委員会
   - 学会誌の内容，投稿状況について報告があった.
   - PubMed搭載過程について報告があった.
   - 農薬学会が紹介されたJ-STAGE NEWSについて報告があった.
   - 転載許可，オープンジャーナル化について報告があった.
   - 次期編集委員会メンバーについて報告があった.
3. 学術・技術支援委員会
   - 学術・技術支援委員会活動について報告があった.
   - 問答あれこれの販売状況について報告があった.
   - 講師派遣について報告があった.
   - 小集会における講演について要旨の著作権利用許諾書を依頼した.
   - 農薬科学研究奨励金の審査について報告があった.
4. 役員・評議員選挙について
   - 評議員選挙の結果について報告があった.
   - 次期常任評議員，顧問，監事，名誉会員，終身会員について報告があった.
5. 学会賞受賞者選考委員会
   - 受賞者選考過程と結果について報告があった.
   - 内規の改定について報告があった.
6. 日本植物防疫協会
   - 日植防と三学会の今後の関係について報告があった.
7. 三学会会長懇談会
   - 日植防と三学会の今後の関係について検討した.
8. 植物保護科学連合
   - シンポジウムの開催について報告があった.
9. 一般社団法人日本農学会
   - 日本農学賞選考会，来年度事業計画について報告があった.
10. 研究会の後援・協賛
    - 1件の後援依頼について承認した.
11. 第44回大会関係
    - 公開シンポジウムの準備状況について報告があった.
    - 組織委員，予算，スケジュール，シンポジウム，一般講演，学生発表賞，託児所について検討した.
12. 入退会の報告
    - 入退会について報告があった.
13. その他
    - 企業推薦賞について検討した.

平成30年度　第4回常任評議員会議事録

日　時：平成31年2月2日(土) 13:00～16:45
場　所：日本植物防疫協会　地下会議室
出席者：出席者　16名，欠席者　1名

議事：

I. 平成30年度第3回常任評議員会議事録の確認

II. 経過報告および議案

1. 財務関係
   - 平成30年度決算について報告があった．
   - 学術小集会収支決算について報告があった．
   - 平成31年度予算案について報告があった．
2. 編集委員会
   - 学会誌の内容，投稿状況について報告があった．
   - 次期編集委員会メンバーについて報告があった．
3. 学術・技術支援委員会
   - 学術・技術支援委員会活動について報告があった．
   - 農薬科学研究奨励金二次審査を行なった．
4. 日本植物防疫協会
   - 日植防と三学会の今後の関係について報告があった．
5. 昆虫科学連合，植物保護科学連合
   - 植物保護科学連合の大型研究計画について報告があった．
6. 一般社団法人日本農学会
   - 日本農学賞総会・選考会について報告があった．
7. 研究会の後援・協賛
   - 1件の後援依頼について承認した．
8. 第44回大会関係
   - 公開シンポジウムについて報告があった．
   - 懇親会，シンポジウム，予算，スケジュールについて検討した．
   - 優秀学生発表賞の賞状について検討した．
   - 第45回評議員会議事次第案，進行スケジュール案について検討した．
   - 第44回通常総会資料案，進行スケジュール案について検討した．
   - 著作権委譲について検討した．
9. 入退会の報告
   - 入退会について報告があった．
10. その他
   - 上路名誉会員のお別れ会について報告があった．

第45回編集委員会議事録

日　時：平成31年3月10日(日)　15:15〜16:15
場　所：名城大学　共通講義棟南　S401
出席者：40名

議事：

1）中川編集委員長より2018年度の編集業務について報告があった．
2）次期（第22期）編集委員会に新しく加わって頂いた先生，編集委員を退任する先生からご挨拶を頂いた．
3）次期編集員会には5名の部門長を置くことにし，J-Stageに委員長，部門長の写真を掲載することにした．
4）IFを挙げるための方策，JPSのオープンジャーナル化について意見があった．
5）投稿システムについて説明し，できるだけ査読を早く済ませていただくよう依頼した．

報告事項：

1） 農薬学会誌およびJPSにおける論文掲載状況について報告があった．
2） 浅見常任編集委員（除草剤関連部門長）がまとめ役となって，Vol 43, Issue 3を植物ホルモン関連の特集号として発行した．Review 2, Regular 7, Note 1の合計10編の論文に加えてEditorial, Prefaceを執筆した．
3） 2019年2月発行の農薬学会誌第44巻第1号に，特別寄稿を執筆した．
4） 石原常任編集委員が担当し，和文誌に新企画ショートレビュー（見開き）の連載を開始した．
5） 論文投稿の現状が報告された．2018年1月1日から12月31日までの1年間に95編の投稿があった．2017年が112編だったので，若干少なくなったが，値上げによる効果かどうかは不明であった．
6） 2018年10月26日にJPSがVol 41に遡ってPubMedに収載され，PubMed検索が可能となった．
7） JPS以外の農薬関連を取り扱っている国際雑誌（JAFC, PMS, PBP）および農薬関連の雑誌である応用動物昆虫学会誌（AEZ），植物病理学会誌（AJGPP），雑草学会誌（WBM）との比較が行われた．
8） 非会員の掲載料を50,000円に値上げすることが，2019年3月10日の評議員会で承認されたことが伝えられた．
9） 2018年7月に第202回常任編集委員会を開催し，論文賞候補を決定した．
10） JPSのIFが1を越えたことが報告された．

第45回評議員会議事録

日　時：平成31年3月10日(日) 16:30〜17:45
場　所：名城大学　共通講義棟南　S401
出席者：三芳会長，夏目副会長，坂本副会長，大山副会長，内田監事，寺岡監事，評議員57名，委任状32通（合計89名）

出席並びに委任状を提出した評議員（89名）が定足数（34名，評議員総数101名の1/3以上）に達していることを確認

したのちに会則第29条に則り三芳会長を議長として議事を進行した．

議事：

1. 平成30年度会務報告
   ・第44回通常総会資料および第45回評議員会資料に基づき，総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目について委員長または担当常任評議員が報告を行い，質疑を受けたのち，承認された．
2. 役員選挙報告
   ・第45回評議員会資料に基づき，選挙管理委員長が第23期日本農薬学会役員選挙結果を報告し，承認された．
3. 平成30年度会計報告
   ・第44回通常総会資料に基づき，収支決算について担当常任評議員が報告を行ったのち，寺岡監事から収支決算の内容が的確であったとの会計監査結果が報告された．以上の報告について質疑を受けたのち，承認された．
4. 平成31年度事業計画
   ・事業計画案および収支予算案について担当常任評議員が説明を行い，質疑を受けたのち，原案の通り承認された．
5. 会長指名による役員の承認
   ・会長指名による新役員について，原案の通り承認された．
6. 規定の改定
   ・投稿規定の改定について，三芳会長より説明され，日本農薬学会細則第17条に基づき，原案通り承認された．
7. 名誉会員の推薦について
   ・名誉会員として佐々木満 氏，宮本徹 氏，山本廣基 氏が推薦され，承認された．
8. 終身会員の推薦について
   ・終身会員として竹柴英雄 氏，堀伸二郎 氏が推薦され，承認された．
9. 第45回大会について
   ・第45回大会を2020年3月8～10日に大阪府立大学（大阪府堺市）において開催する事が承認された．
10. 新会長挨拶および役員の紹介
    ・夏目新会長から新常任評議員の紹介があった．
11. その他
    ・英文誌のオープンアクセス化について，検討依頼があった．
    ・評議員会への監事の参加について，検討依頼があった．
    ・赤字対策について，検討依頼があった．

第44回通常総会議事録

平成31年3月11日(月）午前9時10分より，名城大学名城ホール（愛知県名古屋市）において，第44回通常総会が開催された．会則24条に則り三芳会長を議長として議事を進行した．

議事：

1. 平成30年度事業報告および決算報告
   ・総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目，規定の改定について各担当者が報告を行った．次いで，収支決算について会計担当者が報告を行ったのち，内田監事から収支決算の内容が的確であったとの会計監査結果が報告された．以上の報告について質疑を受けたのち，承認された．
2. 平成31年度事業計画および収支予算について
   ・事業計画案および収支予算案について各担当者が説明を行い，質疑を受けたのち，原案の通り承認された．
3. 名誉会員の承認について
   ・名誉会員として佐々木満 氏，宮本徹 氏，山本廣基 氏が推薦され，承認された．
4. 終身会員および顧問の推薦について
   ・第45回評議員会において終身会員2名および顧問2名が承認された旨報告があった．
5. 第45回大会について
   ・第45回大会を2020年3月8～10日に大阪府立大学（大阪府堺市）において開催する事が承認された．

資料

I　会務報告

1．総務関係報告

1）会員異動（平成30.1.1～平成30.12.31）

	平成29年12月31日現在	平成30年12月31日現在			増　減（△減）
		国　内	国　外	計	
名誉会員	22	20	0	20	△2
終身会員	57	58	0	58	1
正 会 員	1002	962	12	974	△28[a]
学生会員	62	55	0	55	△7[b]
維持会員（口数）	36（70口）	35（69口）	0	35（69口）	△1（△1口）
団体会員	81	80	0	80	△1
購読会員	27	5	20	25	△2

[a] 入会者：76名，退会者：54名，会費未納者：50名

[b] 入会者：34名，退会者：28名，会費未納者：13名

2）会誌の発行

発行および頒布部数（平成30.1.1～平成30.12.31）

誌-巻-号	農薬誌-43-1	JPS-43-1, 2	農薬誌-43-2	JPS-43-3, 4
発行部数	1400	1400	1400	1370
会員頒布	1231	1231	1231	1231
一般購読	25	24	25	24
寄　贈	23	23	23	23
広告・PR	10	10	10	10
事務用	2	2	2	2
保存用	5	5	5	5
計	1296	1295	1296	1295
残存部数	104	105	104	75

3）日本農薬学会第43回大会

（1）第43回大会：平成30年5月25日(金）に，秋田ビューホテルにおいて，総会，学会賞授賞式，受賞講演（奨励賞2題，業績賞（研究）1題，業績賞（技術）1題），特別講演（3題）が行われた．翌5月26日(土)～27日(日)には秋田県立大学（秋田キャンパス）において，一般講演（100題），シンポジウム（2件），ランチョンセミナー（6件）が行われた．参加者総数は447名であった．

（2）第43回通常総会：平成29年度会務報告，会計報告，会計監査報告および終身会員の推薦の報告が行われ，平成29年度事業報告および決算，平成30年度事業計画および収支予算（案），日本農薬学会大会第44回大会（平成31年，愛知県名古屋市，名城大学）の開催が承認された．また，平成30年度日本農薬学会賞（奨励賞，業績賞，論文賞）の授賞式が行われた．（H30.5.25）

4）役員会の開催

（1）第45回評議員会：平成30年度会務報告，会計報告および役員選挙報告が行われ，平成31年度事業計画および収支予算（案），日本農薬学会大会第45回大会（2020年　大阪府堺市大阪府立大学）の開催および名誉会員，終身会員，顧問，会長が推薦する役員が承認された．（H31.3.10）

（2）常任評議員会：5回（H30.8.4, 9.8, 12.8, H31.2.2, 3.10）

5）専門委員会など

（1）第44回編集委員会：H31.3.10に開催．学会誌への投稿状況，新企画等の報告．

（2）常任編集委員会：H30.7.28, H31.1.12に開催．和文誌，英文誌の掲載内容，論文賞の推薦，非会員の英文誌掲載料の改定等について検討．

（3）日本農薬学会賞受賞者選考委員会：H30.9.22に開催．メール会議7回．日本農薬学会賞，日本農学進歩賞の選考について検討．

（4）財務委員会

1. 常任評議員会開催日及びH30.12.4, H31.1.16に開催．メール会議4回．国際会議等派遣研究者への渡航費補助，学術小集会活動経費補助申請，名古屋大会における公開シンポジウム，平成30年度決算・平成31年度予算について検討．
2. 国際会議の渡航費補助申請の審査．渡航補助は国際学術交流基金より支出．
3. 外部監査（H30.8.3, H31.2.6）の実施に対応．

（5）第44回大会組織委員会：H30.6.7, H31.1.22, 1.25, 2.13, 2.22に開催．

（6）将来計画委員会：H30.4.14に開催．正会員の維持・増加，学会誌の刊行費削減，50周年記念事業，法人化について検討．

（7）学術・技術支援委員会：H30.5.19, 12.22に開催．「農薬について知ろう」Webサイトの運営・保守管理，残留農薬分析セミナー・講師派遣事業等について検討．

（8）農薬科学研究奨励金交付者審査会議：一次審査（H30.12.15～H31.1.21メール会議），二次審査（H31.2.2）．

（9）学術小集会委員長と常任評議員との意見交換：H30.9.8に開催．活動報告・予定，非学会員の勧誘等について意見交換．

（10）三学会長懇談会：H30.11.30に開催．法人化，日本農学賞等について協議．

（11）日本植物防疫協会と三学会との協議会：H30.11.30に開催．日本植物防疫協会による支援等について協議．

（12）選挙管理委員会：H30.7.5, 11.6に開催．第23期役員選挙を実施．

6）技術士育成推進委員会（5学会）

1回の委員会が開催された（H31.2.6）．平成29年度技術士二次試験（農業部門・植物保護）の合格者は9名であり，合格者総数が122名になったとの報告があった．

2. 編集関係報告

1)「日本農薬学会誌」掲載原稿数および頁数

巻　号	掲載原稿数										頁　数
	投稿論文	解説	受賞論文	実験技術講座	ミニレビュー	シンポジア	読み物シリーズ	ショートレビュー	その他	計	
43-1					12	10	2		3[a]	27	100
43-2		2					2	4	3[b]	11	40[c]
合　計		2			12	10	4	4	6	38	140

a: JPS掲載論文の要旨2編，追悼1編.

b: JPS掲載論文の要旨2編，追悼1編.

c: この他に大会案内（26頁）会則等を掲載（16頁）.

2)「Journal of Pesticide Science」掲載原稿数および頁数

巻　号	掲載原稿数								頁　数
	総説	報文	短報	速報	技術資料	受賞論文	その他	計	
43–1	1	3	1		2	1	1[a]	9	56
43–2	1	9						10	96　(+6)[b]
43–3[c]	2	7	1				3[d]	13	72
43–4	1	6	4	1		3	4[e]	19	114　(+6)[b]
合　計	5	25	6	1	2	4	8	51	338（+12）

a: Erratum.　b: Instructions for authors.　c: Special Issue.

d: Editorial, Preface, Erratum.

e: Obituary, Contents of Volume 42（JPS及び農薬誌），Keyword Index, Author Index.

3) 論文賞

候補1件を，学会賞受賞者選考委員会に推薦した.

4) その他

(1) 受付論文数（2018年）：和文0編，英文95編（内，国内からの投稿34編）
(2) 学会誌インパクトファクター（2017年）：1.017
(3) 2016年に遡ってPubMed誌に収載
(4) 電子ジャーナル掲載論文へのアクセス状況（2018年）：月平均約6100件

3. 渉外・企画関係報告

1) セミナーの開催

(1) 残留農薬分析セミナー2018の開催：明治薬科大学清瀬キャンパス（東京都清瀬市，H30.9.14），奈良県農業研究開発センター（奈良県桜井市，H30.11.28, 29）.
(2) 農薬の安全・適正使用に係る研修会（1件）に対して講師（1名）を派遣した.（H30.10.16 JA宮崎中央営農指導員全体研修会）

2) 農薬科学研究奨励金

農薬科学研究に対する研究奨励金を平成30年度は以下の3件の研究に対して交付した.

(1) 加藤玄俊 氏（(一社)ぎふクリーン農業研究センター）：イネ箱施用剤の残留と挙動についての調査
(2) 小松健 氏（東京農工大学農学研究院）：プラントアクティベーター（植物防御活性剤）による植物ウイルス感染抑制機構の解明
(3) 水口智江可 氏（名古屋大学大学院生命農学研究科）：昆虫の胚発生における幼若ホルモン（JH）の生理機能：JH様活性物質の殺卵活性発現メカニズム解明に向けて

3) 学術小集会

(1) 農薬残留分析研究会（第41回）：長崎ブリックホール（長崎市）において開催.「残留農薬分析の信頼性保証に関する話題」をテーマとしてシンポジウム講演5題，特別講演1題の発表が行われた. 参加者は188名であった.（H30.10.11～10.12）
(2) 農薬製剤・施用法研究会（第38回）：ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）（滋賀県大津市）において開催.

特別講演4題，ポスター14題，技術研究10題，フォーラム1題の発表が行われた．参加者は300名であった．（H30.10.18～19）

（3）農薬環境科学研究会（第36回）：ホテルクラウンパレス甲府（山梨県甲府市）において開催．基調講演1題，特別講演1題，技術研究発表5題，ポスター15題の発表が行われた．参加者は84名であった．（H30.11.8～9）

（4）農薬生物活性研究会（第35回）：秋田県立大学（秋田市）において第43回大会との共催で「未来を照らせ！新成分・新活性」をテーマとして5題の講演が行われた．参加者は300名であった．（H30.5.26）

（5）農薬デザイン研究会（第33回）：ホテルアンビア松風閣（静岡県焼津市）において開催．招待講演4題，企業講演2題が行われた．参加者は132名であった．（H30.11.8～9）

（6）農薬レギュラトリーサイエンス研究会（第26回）：北とぴあ（東京都北区）において開催．「農取締法の改正を受けて」をテーマとして6題の講演が行われた．参加者は155名であった．（H30.11.27）

（7）農薬バイオサイエンス研究会（第15回）：秋田県立大学（秋田市）において第43回大会との共催で「先端技術と農薬の未来像」をテーマとして5題の講演が行われた．参加者は140名であった．（H30.5.27），（第16回）：京都大学（京都市）において「農薬研究の最前線とその未来像を描く」をテーマとして4題の講演が行われた．参加者は82名であった．（H30.11.23）

4）学術小集会以外の研究会等

（1） 構造活性フォーラム2018（協賛）：京都市（H30.6.15）

（2） 第11回薬物の分子設計と開発に関する日中合同シンポジウム（協賛）：中国紹興市（H30.6.22～25）

（3） 第9回日本昆虫科学連合・日本学術会議公開シンポジウム：東京都文京区（H30.7.28）

（4） Pyrethrum Workshop 2018（協賛）：英国ケンブリッジ（H30.9.3～5）

（5） 第13回エコバランス国際会議（協賛）：東京都墨田区（H30.10.9～12）

（6） 平成30年度日本農学会公開シンポジウム：東京都文京区（H30.10.13）

（7） 第33回報農会シンポジウム（協賛）：東京都北区（H30.10.23）

（8） 平成30年度日本学術会議公開シンポジウム（日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会，植物保護科学連合主催）：東京都文京区（H30.12.1）

（9） 第46回構造活性相関シンポジウム（協賛）：大阪府吹田市（H30.12.5～6）

（10）第3回日本生物防除協議会シンポジウム（後援）：東京都北区（H31.3.5）

（11）名城大学公開シンポジウム（後援）：愛知県名古屋市（H31.3.10）

5）国際会議等派遣研究者への渡航費補助

網干貴子 氏（山形大）：Plant Biology 2018　7月，カナダ，モントリオール

内田景子 氏（東京農工大）：The American Society for Virology　7月，アメリカ，メリーランド

藤田健太郎 氏（神戸大）：38th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants（DioX-in2018）　8月，ポーランド，クラクフ

6）その他

4. 日本農薬学会賞受賞者選考委員会報告

1）奨励賞，業績賞（研究，技術）

評議員ならびに学術小集会委員長より推薦された奨励賞4課題，業績賞（研究）3課題，業績賞（技術）2課題について慎重公正なる選考を行った結果，次の6課題を各賞の候補と決定した．

【奨励賞】

甲斐建次 氏（大阪府立大学）

「特異な生理活性を示す微生物コミュニケーション分子に関する生物有機化学的研究」

草島美幸 氏（東京大学）

「植物ホルモンシグナルに着目した農薬の作用機構解析」

【業績賞（研究）】

有江　力 氏（東京農工大学）

「フザリウムによる植物病害の防除と検診，分子遺伝学に関する研究」

髙木和広 氏（農業・食品産業技術総合研究機構）

「POPs等難分解性有機化合物の微生物分解に関する研究」

【業績賞（技術）】

海老原耕一 氏　江崎竜太郎 氏　萩原寛之 氏　濱田崇宏 氏　津田幹雄 氏（三井化学アグロ株式会社）

「殺菌剤「トルプロカルブ」の開発」

藤波　周 氏　高橋優樹 氏　種谷良貴 氏　伊藤　稔 氏　那須美菜 氏（クミアイ化学工業株式会社）

「水稲用除草剤「フェノキサスルホン」の開発」

2）論文賞

編集委員会より推薦された論文について慎重公正なる審査を行い，候補を決定した．

「**Discovery of a nonsteroidal brassinolide-like compound, NSBR1**」

[1]Airi Sugiura, [1]Shinri Horoiwa, [1]Takanori Aoki, [1]Seisuke Takimoto, [2,3]Ayumi Yamagami, [2,3]Takeshi Nakano, [1]Yoshiaki Nakagawa, [1]Hisashi Miyagawa（[1]Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Kyoto, Japan, [2]Gene Discovery Research Group, RIKEN Center for Sustainable Resource Science, Wako, Saitama, Japan, [3]CREST, JST, Kawaguchi, Saitama, Japan），Vol. 42, No. 3, pp. 105–111（2017）

5. 平成31年度日本農薬学会奨励賞，業績賞および論文賞受賞者の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された日本農薬学会奨励賞，業績賞および論文賞各候補について，評議員の投票により授賞が決定した．

6. 平成31・32年度日本農薬学会役員選挙

日本農薬学会選挙管理委員会の管理のもと平成31・32年度日本農薬学会役員選挙を実施し，当選者を決定した．投票率は36.7％であった．会長から推薦され評議員会において承認された役員を加え，平成31・32年度日本農薬学会会長，副会長，監事および評議員が決定した．

7. 日本農学賞の決定

平成31年2月9日に開催された（一社）日本農学会の2019年度（第2回）総会において，日本農薬学会から推薦した米山弘一 氏への日本農学賞の授与が決定された．

8. その他

1）規定の改定

投稿規定（平成30年5月24日改定）（9）の改定

改定前	改定後
（平成30年5月24日改定） （9）著者（非会員）は，掲載された論文1編につき，掲載料として30,000円を支払うものとする．ただし，会員はこれを無料とする．	（平成31年3月10日改定） （9）著者（非会員）は，掲載された論文1編につき，掲載料として50,000円を支払うものとする．ただし，会員はこれを無料とする．

II　会計報告

収支計算書

平成30年 1月 1日から平成30年12月31日まで

（単位:円）

科　　目	予算額	決算額	差 異
Ⅰ 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	16,680,000	16,049,216	630,784
正会員会費収入	8,300,000	7,936,000	364,000
学生会員会費収入	130,000	112,000	18,000
海外会員会費収入	80,000	64,324	15,676
団体会員会費収入	770,000	799,892	△ 29,892
購読会員会費収入	300,000	237,000	63,000
維持会員会費収入	7,100,000	6,900,000	200,000
会報刊行収入	840,000	1,267,500	△ 427,500
頒布収入	80,000	46,500	33,500
広告料収入	60,000	90,000	△ 30,000
著者負担金収入	700,000	1,131,000	△ 431,000
事業収入	23,030,000	25,012,032	△ 1,982,032
大会運営収入	6,630,000	7,599,328	△ 969,328
学術小集会運営収入	13,500,000	15,503,104	△ 2,003,104
学術・技術支援委員会収入	2,900,000	※ 1,909,600	990,400
雑収入	144,000	159,204	△ 15,204
預金利息収入	4,000	2,060	1,940
雑収入	140,000	157,144	△ 17,144
事業活動収入計	40,694,000	42,487,952	△ 1,793,952
2. 事業活動支出			
会報刊行費支出	9,800,000	9,380,260	419,740
旅費交通費支出	290,000	222,100	67,900
通信運搬費支出	10,000	5,378	4,622
消耗品費支出	50,000	0	50,000
印刷製本費支出	7,300,000	7,159,585	140,415
編集費支出	1,500,000	1,434,827	65,173
学会誌送料支出	650,000	558,370	91,630
総会・大会費支出	6,240,000	7,034,960	△ 794,960
学術・技術支援委員会費支出	4,258,000	4,308,403	△ 50,403
学術小集会費支出	13,000,000	※ 14,843,786	△ 1,843,786
HP管理費支出	900,000	866,175	33,825
学会賞関係費支出	350,000	312,174	37,826
学術交流費支出	300,000	417,350	△ 117,350
国際学術交流費支出	1,000,000	730,000	270,000
農薬科学研究奨励金支出	1,500,000	1,500,000	0
男女共同参画支援費	150,000	66,200	83,800
選挙管理費支出	200,000	216,000	△ 16,000
事業運営費支出	2,800,000	2,320,054	479,946
会議費支出	800,000	534,574	265,426
旅費交通費支出	2,000,000	1,785,480	214,520
管理費支出	4,257,000	4,458,053	△ 201,053
旅費交通費支出	130,000	92,430	37,570
通信運搬費支出	250,000	255,935	△ 5,935
消耗品費支出	150,000	127,959	22,041
事務管理費支出	3,217,000	3,217,000	0
印刷費支出	50,000	51,840	△ 1,840
外部監査管理費	160,000	151,874	8,126
雑支出	300,000	561,015	△ 261,015
事業活動支出計	44,755,000	46,453,415	△ 1,698,415
事業活動収支差額	△ 4,061,000	△ 3,965,463	△ 95,537
Ⅱ 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特定資産取崩収入	3,000,000	3,000,000	0
積立調整基金取崩収入	1,000,000	1,000,000	0
国際学術交流基金取崩収入	1,000,000	1,000,000	0
寄付基金取崩収入	1,000,000	1,000,000	0
投資活動収入計	3,000,000	3,000,000	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	3,000,000	3,000,000	0
当期収支差額	△ 1,061,000	△ 965,463	△ 95,537
前期繰越収支差額	2,959,470	2,959,470	0
次期繰越収支差額	1,898,470	1,994,007	△ 95,537

※学術・技術支援委員会発行書籍を農薬残留分析研究会が購入した459,000円については、内部の取引として収入では、「学術・技術支援委員会収入」から、支出では、「学術小集会支出」からそれぞれ消去している。

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金、仮払金、未払金、前受金及び預り金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

（単位：円）

科　目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	8,573,290	6,487,909
未 収 金	331,200	516,600
仮 払 金	500	850,500
合　計	8,904,990	7,855,009
未 払 金	125,520	110,400
前 受 金	5,820,000	5,750,602
預 り 金	0	0
合　計	5,945,520	5,861,002
次期繰越収支差額	2,959,470	1,994,007

貸借対照表

平成30年12月31日現在

（単位:円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	6,487,909	8,573,290	△ 2,085,381
未収金	516,600	331,200	185,400
仮払金	850,500	500	850,000
流動資産合計	7,855,009	8,904,990	△ 1,049,981
2. 固定資産			
特定資産			
積立調整基金	12,224,379	13,224,379	△ 1,000,000
国際学術交流基金	15,885,042	16,885,042	△ 1,000,000
寄付基金	7,764,117	8,764,117	△ 1,000,000
固定資産合計	35,873,538	38,873,538	△ 3,000,000
資産合計	43,728,547	47,778,528	△ 4,049,981
Ⅱ　負債の部			
1. 流動負債			
未払金	110,400	125,520	△ 15,120
前受金	5,750,602	5,820,000	△ 69,398
流動負債合計	5,861,002	5,945,520	△ 84,518
負債合計	5,861,002	5,945,520	△ 84,518
Ⅲ　正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	37,867,545	41,833,008	△ 3,965,463
正味財産合計	37,867,545	41,833,008	△ 3,965,463
負債及び正味財産合計	43,728,547	47,778,528	△ 4,049,981

正味財産増減計算書

平成30年 1月 1日から平成30年12月31日まで

（単位:円）

科　　目	当年度	前年度	増 減
Ⅰ 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	16,049,216	16,625,143	△ 575,927
正会員会費	7,936,000	8,240,000	△ 304,000
学生会員会費	112,000	126,000	△ 14,000
海外会員会費	64,324	79,143	△ 14,819
団体会員会費	799,892	820,000	△ 20,108
講読会員会費	237,000	260,000	△ 23,000
維持会員会費	6,900,000	7,100,000	△ 200,000
会報刊行収益	1,267,500	736,200	531,300
頒布収益	46,500	71,000	△ 24,500
広告料収益	90,000	60,000	30,000
著者負担金益	1,131,000	605,200	525,800
事業収益	25,012,032	22,603,173	2,408,859
大会運営収入	7,599,328	8,264,046	△ 664,718
学術小集会運営収入	15,503,104	13,713,127	1,789,977
環境委員会 収入	0	626,000	△ 626,000
学術・技術支援委員会収入	1,909,600	0	1,909,600
雑収益	159,204	505,950	△ 346,746
預金利息	2,060	3,487	△ 1,427
雑収益	157,144	502,463	△ 345,319
経常収益計	42,487,952	40,470,466	2,017,486
(2) 経常費用			
会報刊行費	9,380,260	9,759,916	△ 379,656
旅費交通費	222,100	170,200	51,900
通信運搬費	5,378	13,743	△ 8,365
消耗品費	0	57,543	△ 57,543
印刷製本費	7,159,585	7,814,230	△ 654,645
編集費	1,434,827	1,067,257	367,570
学会誌送料	558,370	636,943	△ 78,573
総会・大会費	7,034,960	7,074,032	△ 39,072
学術・技術支援委員会費	4,308,403	0	4,308,403
環境委員会	0	977,273	△ 977,273
学術小集会費	14,843,786	13,165,698	1,678,088
HP管理費	866,175	950,175	△ 84,000
学会賞関係費	312,174	618,702	△ 306,528
学術交流費	417,350	759,450	△ 342,100
国際学術交流費	730,000	0	730,000
農薬科学研究奨励金	1,500,000	1,500,000	0
男女共同参画支援費	66,200	0	66,200
選挙関連費	216,000	0	216,000
事業運営費	2,320,054	2,778,513	△ 458,459
会議費	534,574	913,233	△ 378,659
旅費交通費	1,785,480	1,865,280	△ 79,800
管理費	4,458,053	4,172,542	285,511
旅費交通費	92,430	99,090	△ 6,660
通信運搬費	255,935	249,522	6,413
消耗品費	127,959	111,679	16,280
事務管理費	3,217,000	3,190,000	27,000
印刷費	51,840	43,200	8,640
外部会計監査費	151,874	151,874	0
雑費	561,015	327,177	233,838
40周年記念事業	0	1,758,215	△ 1,758,215
経常費用計	46,453,415	43,514,516	2,938,899
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 3,965,463	△ 3,044,050	△ 921,413
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 3,965,463	△ 3,044,050	△ 921,413
2. 経常外増減の部	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,965,463	△ 3,044,050	△ 921,413
一般正味財産期首残高	41,833,008	44,877,058	△ 3,044,050
一般正味財産期末残高	37,867,545	41,833,008	△ 3,965,463
Ⅱ 指定正味財産増減の部	0	0	0
Ⅲ 正味財産期末残高	37,867,545	41,833,008	△ 3,965,463

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針
消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

（単位：円）

科　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
積立調整基金口	13,224,379	0	1,000,000	12,224,379
国際学術交流基金	16,885,042	0	1,000,000	15,885,042
寄付基金口	8,764,117	0	1,000,000	7,764,117
合　計	38,873,538	0	3,000,000	35,873,538

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

（単位：円）

科　目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	(0)	(12,224,379)	(0)
国際学術交流基金	15,885,042	(0)	(15,885,042)	(0)
寄付基金口	7,764,117	(0)	(7,764,117)	(0)
合　計	35,873,538	(0)	(35,873,538)	(0)

財産目録

平成30年12月31日現在

（単位:円）

貸借対照表科目		場所・物量等	金　額
(流動資産)			
	現金	手元保管	83,426
	預金	普通預金	3,193,995
		三井住友銀行白山支店	368,376
		ジャパンネット銀行	1,694,503
		SMBC信託銀行	1,131,116
		振替貯金	3,210,488
	未収金		516,600
	仮払金		850,500
	総会・大会		850,000
	農薬	デポジット料金	500
流動資産合計			7,855,009
(固定資産)			
特定資産			
	積立調整基金		12,224,379
	三井住友銀行白山支店定期		12,224,379
	国際学術交流基金		15,885,042
	三井住友銀行白山支店定期		12,885,042
	ジャパンネット銀行定期		3,000,000
	寄付基金		7,764,117
	三井住友銀行白山支店定期		5,964,117
	SMBC信託銀行		300,000
	ジャパンネット銀行定期		1,500,000
固定資産合計			35,873,538
資産合計			43,728,547
(流動負債)			
	未払金		110,400
	前受金		5,750,602
	正会員		5,695,352
	学生会員		32,000
	海外会員		13,250
	団体会員		10,000
流動負債合計			5,861,002
負債合計			5,861,002
正味財産			37,867,545

Ⅲ　会計監査報告

平成 30 年度日本農薬学会の事業報告および決算について監査の結果，的確であることを認めます.

平成 31 年 2 月 6 日

監事　　内田　又左衛門　印

寺岡　　徹　　印

IV　議事

1. 平成30年度事業報告および決算の承認

2. 平成31年度事業計画および収支予算（案）の承認

1）会誌の発行：日本農薬学会誌　第44巻，第1号～第2号
Journal of Pesticide Science（JPS）誌
第44巻，第1号～第4号

2）第44回大会の開催：H31.3.11～13, 名城大学（愛知県名古屋市）

3）日本農薬学会賞および論文賞の授与

4）専門委員会などの開催

（1）編集委員会
（2）常任編集委員会
（3）日本農薬学会賞受賞者選考委員会
（4）財務委員会
（5）第45回大会組織委員会
（6）将来計画委員会
（7）学術・技術支援委員会
（8）農薬科学研究奨励金交付者審査会議（一次および二次）

5）セミナーの開催

（1）残留農薬分析セミナー 2019を開催予定（2回程度，2か所で開催（詳細未定））
（2）農薬の安全性等に関する講師派遣（予定）

6）学術小集会，講演会等の開催

（1）農薬残留分析研究会：第42回農薬残留分析研究会をコンパルホール（大分市）において開催.（2019.10.31～11.1）
（2）農薬製剤・施用法研究会：第39回農薬製剤・施用法シンポジウムをつくば国際会議場　大ホール（茨城県つくば市）において開催.（2019.10.17～18）
（3）農薬環境科学研究会：第37回農薬環境科学研究会を鷲羽ハイランドホテル（岡山県倉敷市）において開催.（2019.11.21～22）
（4）農薬生物活性研究会：第36回農薬生物活性研究会シンポジウムを東京農業大学校友会館グリーンアカデミーホール（東京都世田谷区）において開催.（2019.4.26）
（5）農薬デザイン研究会：第34回農薬デザイン研究会を東京コンファレンスセンター品川（東京都港区）において開催.（2019.11.8）
（6）農薬レギュラトリーサイエンス研究会：第27回シンポジウムを11月頃に開催.（開催地未定）
（7）農薬バイオサイエンス研究会：第17回農薬バイオサイエンス研究会を名城大学（愛知県名古屋市）において開催.（第44回大会との共催）（2019.3.13）

7）農薬科学研究奨励金の交付

（1）鎗田　孝 氏（茨城大学農学部）：本当に正確な残留農薬分析法の実現～同位体希釈分析における食品成分起因の同位体分別の機構解明
（2）古田賢次郎 氏（島根大学生物資源科学部）：害虫選択的な幼若ホルモン拮抗阻害剤の合成探索とその作用機構の解析
（3）伴野有彩 氏（大阪府立環境農林水産総合研究所）：安定同位体標識化合物を用いたサロゲート法のLC-MS/MS農薬多成分一斉分析法への適用にむけての検討

8）平成31年度収支予算（案）

収支予算案
2019年 1月 1日から2019年12月31日まで

（単位:円）

科　　目	2019年予算	2018年予算額	増減	備　考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会費収入	16,160,000	16,680,000	△ 520,000	
正会員会費収入	8,000,000	8,300,000	△ 300,000	
学生会員会費収入	130,000	130,000	0	
海外会員会費収入	80,000	80,000	0	
団体会員会費収入	800,000	770,000	30,000	入会増
購読会員会費収入	250,000	300,000	△ 50,000	
維持会員会費収入	6,900,000	7,100,000	△ 200,000	
会報刊行収入	1,220,000	840,000	380,000	
頒布収入	60,000	80,000	△ 20,000	
広告料収入	60,000	60,000	0	
著者負担金収入	1,100,000	700,000	400,000	
事業収入	21,002,000	23,030,000	△ 2,028,000	
大会運営収入	5,801,000	6,630,000	△ 829,000	
学術小集会運営収入	14,081,000	13,500,000	581,000	
学術・技術支援委員会収入	1,120,000	2,900,000	△ 1,780,000	
雑収入	512,000	144,000	368,000	
預金利息収入	2,000	4,000	△ 2,000	
雑収入	510,000	140,000	370,000	
事業活動収入計	38,894,000	40,694,000	△ 1,800,000	
2. 事業活動支出				
会報刊行費支出	9,810,000	9,800,000	10,000	
旅費交通費支出	300,000	290,000	10,000	
通信運搬費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費支出	50,000	50,000	0	
印刷製本費支出	7,000,000	7,300,000	△ 300,000	
編集費支出	1,800,000	1,500,000	300,000	
学会誌送料支出	650,000	650,000	0	
総会・大会費支出	5,801,000	6,240,000	△ 439,000	
学術小集会費支出	14,955,956	13,000,000	1,955,956	
学術・技術支援委員会支出	1,120,000	4,258,000	△ 3,138,000	2018年度は出版費で支出増
HP管理費支出	900,000	900,000	0	
学会賞関係費支出	400,000	350,000	50,000	
学術交流費支出	800,000	300,000	500,000	
国際学術交流費支出	2,270,000	1,000,000	1,270,000	IUPAC対応
農薬科学研究奨励金支出	1,500,000	1,500,000	0	
男女共同参画支援費	150,000	150,000	0	
選挙管理費支出	0	200,000	△ 200,000	
事業運営費支出	2,000,000	2,800,000	△ 800,000	
会議費支出	500,000	800,000	△ 300,000	常任評議員会の会議数削減
旅費交通費支出	1,500,000	2,000,000	△ 500,000	
管理費支出	4,312,000	4,257,000	55,000	
旅費交通費支出	90,000	130,000	△ 40,000	
通信運搬費支出	300,000	250,000	50,000	
消耗品費支出	150,000	150,000	0	
事務管理費支出	3,262,000	3,217,000	45,000	
印刷費支出	50,000	50,000	0	
外部監査管理費	160,000	160,000	0	
雑支出	300,000	300,000	0	
事業活動支出計	44,018,956	44,755,000	△ 736,044	
事業活動収支差額	△ 5,124,956	△ 4,061,000	△ 1,063,956	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	5,000,000	3,000,000	2,000,000	
積立調整基金 取崩収入 ※	1,500,000	1,000,000	500,000	
国際学術交流基金 取崩収入※	2,000,000	1,000,000	1,000,000	
寄付基金 取崩収入 ※	1,500,000	1,000,000	500,000	
投資活動収入計	5,000,000	3,000,000	2,000,000	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	5,000,000	3,000,000	2,000,000	
当期収支差額	△ 124,956	△ 1,061,000	936,044	
前期繰越収支差額	1,994,007	2,959,470	△ 965,463	
次期繰越収支差額	1,869,051	1,898,470	△ 29,419	

※国際学術交流基金取崩収入：国際学術交流費に充当、寄付基金取崩収入：農業科学研究奨励に充当
積立調整基金：財務活動安定化に活用

3. 名誉会員の承認および終身会員・顧問の推薦

1）名誉会員の承認

会則第7条1項により，佐々木満 氏，宮本 徹 氏，山本 廣基 氏を名誉会員に推挙する．

2）終身会員の推薦

会則第7条2項により，竹柴英雄 氏，堀伸二郎 氏を終身会員に推薦し，評議員会において承認された．

3）顧問の推薦

会則第16条により，佐藤 清 氏，寺岡 徹 氏を顧問に指名し，評議員会において承認された．

4. 日本農薬学会第45回大会（2020年）の承認

第45回大会を2020年3月8～10日に大阪府立大学（大阪府堺市）において開催する．

5. その他

会 員 異 動

（平成30年12月1日～平成31年2月28日）

入会

正会員

中野 一朗	大竹 貴光	鈴木 俊広	江崎竜太郎
杉浦 愛理	高橋 郁夫	本間 隆	桑原 尚俊
柴田 葵	近藤 健	鬼頭 信臣	小野木由佳
秋元 健太	立元 智子	柳沼 慎二	芝﨑 健悟
山本 彩	木村 彩子	林 直人	津田 幹雄
萩原 隆介	見立 絢子	女部田寛子	

学生会員

土井 捷平	中村 美月	東浦 智也	鈴木 翔太
上野美乃李	二神加奈恵	下村 未紀	宇野 晋平
平野 和希	佐々木健太	矢野まりこ	村田 晃一
馬場 敦志	西行 優子	正田 雄紀	假谷 佳祐
梁 禹蒙	末吉 歩夢	松原 佳輝	高島 良磨
髙松 亮太	浜田 梨沙	竹原 千恵	堀田 里奈
豊福美和子			

海外会員

SAIN, Satish Kumar　　PUSHPENDRA, Koli

（受付順）

退会

名誉会員

上路 雅子

正会員

殷 熙洙	古谷 隆司	市川 健	今井 康史
石丸 治郎	川合 伸也	岸本 孝	香口 哲行
近藤 俊夫	宮下 隆	小笠原紀征	宗 和弘
杉浦 広幸	高取 聡	沼尾 哲也	上田 泰人
和田 勝昭	林 直孝	近藤 勝義	横田 健治
北原 克也	水口 竜人	西村 粛見	志鎌 大介
中島 信一	鈴木 郁子	山岸 由和	劉 根炎
小林 政文	尾田 拓麻	吉永 直子	野村 誠
籠原 裕磨	尾崎 正美	小山 一秋	中井 隆志
杉本 士朗	石井 貴広	水上 智道	梶原 淳睦
澤田石一之	北野 生薫	石塚 千遥	小倉里江子
西山 隆之	中井 啓陽	嶋谷 美香	長谷川由加里
池田 庸二	森本 紀子	高市 成美	小久 保悠
山岸 聖	上野翔太郎	杉原 裕亮	加藤 靖児
山下 浩一	城埜 歩美	永宮 光	福田 恵里
瀬戸 信博	高橋 絹海	田中 昭人	YADAV, Ishwar
提箸 祥幸	勝間田 駿	木村 愛	

学生会員

及川 和吉　　王 建東

海外会員

AHMED, Mohamed Ahmed Ibrahim
ABDEL GHANI, Sherif

団体会員

一般財団法人広島県環境保健協会
新潟県農業総合研究所
ライオン株式会社

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛，後援する会議等

2019年

10月

17日（木）～18日（金） 第39回農薬製剤・施用法研究会

主 催：日本農薬学会，農薬製剤・施用法研究会
会 場：つくば国際会議場 大ホール［〒305–0032 茨城県つくば市竹園2–20–3］
U R L：http://pssj2.jp/committee/formulation.html

31日（木）～11月1日（金） 第42回農薬残留分析研究会

主 催：日本農薬学会，農薬残留分析研究会
会 場：コンパルホール［〒870–0021 大分県大分市府内町1–5–38］
U R L：http://pssj2.jp/committee/residue.html

11月

8日（木） 第34回農薬デザイン研究会

主 催：日本農薬学会，農薬デザイン研究会
会 場：東京コンファレンスセンター品川［〒108–0075

東京都港区港南1–9–36］
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/committee/design.html

21日（木）～22日（金）第37回農薬環境科学研究会
主　催：日本農薬学会，農薬環境科学研究会
会　場：倉敷せとうち児島ホテル［〒711–0926　岡山県倉敷市下津井吹上303–53］
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/committee/environment.html

詳細未定　第27回農薬レギュラトリーサイエンス研究会
主　催：日本農薬学会，農薬レギュラトリーサイエンス研究会
会　場：東京都近郊
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/committee/regulatory.html

2020年

3月
8日（日）～10日（火）日本農薬学会第45回大会
主　催：日本農薬学会
会　場：大阪府立大学
ＵＲＬ：http://pssj2.jp/

9月
15日（火）～18日（金）アジア植物病理学会
主　催：日本植物病理学会
会　場：つくば国際会議場
ＵＲＬ：https://acpp2020.org

学会主催会議などの詳細

第39回　農薬製剤・施用法シンポジウム

主　催：日本農薬学会農薬製剤・施用法研究会
協　賛：農業食料工学会，日本雑草学会，粉体工学会，日本化学会，高分子学会，色材協会，日本油化学会
日　時：2019年10月17日（木）～18日（金）
会　場：つくば国際会議場（つくばエクスプレスつくば駅A3出口より徒歩10分）
URL：http://www.epochal.or.jp/
〒305–0032　茨城県つくば市竹園2–20–3
TEL：029–861–0001　FAX：029–861–1209
第39回　農薬製剤・施用法シンポジウムURL：
http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai39.html

1.　プログラム（予定）
10月17日　13:00～17:30　特別講演（2件），フォーラム，ポスターセッション
18:00～20:00　情報交換会
10月18日　9:00～16:00　特別講演（3件），技術研究発表
【特別講演】
①「難防除外来雑草による被害実態と技術開発の課題」
黒川俊二（国立研究開発法人　農業・食品産業技術総合研究機構）
②「農薬散布用マルチローターの実用化と普及状況等について」
湯浅一康（株式会社丸山製作所）
③「マルチローターによる傾斜地果樹園薬液散布の課題と解決策」
岩波　徹（東京農業大学農学部）
④「傾斜地カンキツ園における無人航空機の利用と病害虫防除の省力化」
増井伸一（静岡県農林技術研究所　果樹研究センター）
⑤「ドローン薬液散布に適したシリコーン系展着剤の開発と普及」
Naue, Jeferson（Momentive Performance Materials）

2.　参加申込
1）参加申込方法
所定の「参加申込書」（別紙1）に，所属，氏名（フリガナ），連絡先，参加費振込予定日等の必要事項を明記の上，**2019年7月31日（水）**までにE-mail（別紙1のExcelファイル形式のまま）で下記にお申込み下さい．なお，発送事務等の省力化のため，会社・事業所・研究機関等の単位で代表者が取りまとめの上，一括してお申込み下さるようお願い致します．振込期限は**2019年8月30日（金）**までとなっております．
大会運営の都合上定員になり次第，締め切らせていただきますので，お早目の申込みをお願いします．申込・振込期限を過ぎますと，早期割引料金が適用されませんので，ご注意ください．
〈申込先〉
東邦化学工業(株)　追浜研究所　農業助剤研究室内
第39回　農薬製剤・施用法シンポジウム事務局
参加申込担当
種　和彦
〒237–0062　神奈川県横須賀市浦郷町5–2931
E-mail: seizaisympo@toho-chem.co.jp
TEL: 046–866–5736
2）参加費：
（1）　**7月31日までに申込みの早期割引料金**
①日本農薬学会及び協賛学会（協会）**個人会員**の場合
14,000円（内 研究会費7,000円，情報交換会費7,000円）
②上記学会の個人会員でない場合：
19,000円（内 研究会費12,000円，情報交換会費7,000円）

（2） 8月1日～当日参加申込みの通常料金
21,000円（内 研究会費14,000円，情報交換会費7,000円）
尚，一日のみの参加，及び情報交換会の参加有無にかかわらず，参加費は一律（研究会費＋情報交換会費）です．（振込手数料につきましては別途負担となります．）
参加費には2日目の昼食（弁当）も含まれます．

3）参加費振込
参加申込書に記入の振込予定日に，下記，振り込み口座あてに参加費を振り込み頂きますようお願い致します．**振込期限は8月30日までとなります．** 尚，一度振り込まれました分は返金できませんのであらかじめご了承下さい．ご入金確認後に，折り返し参加確認兼領収書をE-mailにて送付致します．
振込先：三菱東京UFJ銀行駒込支店（店番号061）
普通口座番号：0020365
口座名：日本農薬学会　農薬製剤施用法研究会（ニホンノウヤクガッカイ　ノウヤクセイザイ　セヨウホウ　ケンキュウカイ）

3. 技術研究発表・ポスターセッション申込み
発表内容は農薬製剤・施用法全般に関するものとします．
技術研究発表　：プレゼンテーション（15分）＋質疑応答（5分）
ポスターセッション：3分のショートプレゼンテーションの後，ポスター展示にて行います．発表を希望される方は，「発表申込書」（別紙2）に希望発表形式（口頭あるいはポスター），演題，発表者，所属等，必要事項を記入の上，**6月28日（金）**までにE-mailにて下記にお申込み下さい．尚，技術研究発表・ポスターセッションを希望される方も別途参加申込が必要となります．前項「2. 参加申込」を参照ください．
また，「技術研究発表要領」（別紙3）により作成した発表要旨をとともに「著作権利用許諾誓約書」（別紙4）について必要事項を記入し，**7月31日（水）までに**下記技術研究発表担当まで**E-mailにて**提出してください．
・送付先：
日産化学(株)物質科学研究所内
第39回　農薬製剤・施用法シンポジウム事務局　技術研究発表担当
釜谷拓和
〒274–8507 千葉県船橋市坪井西2–10–1
E-mail: seizai39@nissanchem.co.jp
TEL: 047–465–1116

4. 宿泊
事務局での宿泊手配は行っておりません．つくば駅周辺のホテルにつきましてはつくば国際会議場のホームページ（http://www.epochal.or.jp/）に会議場周辺のホテルの宿泊ガイドがございますのでご参照ください．早めの宿泊予約をお奨めします．

5. 事務局
ご不明な点がありましたら下記担当者までご連絡ください．
【シンポジウム全般に関する問い合わせ先】
国立研究開発法人　農業・食品産業技術総合研究機構
農業技術革新工学研究センター　次世代コア技術研究領域
生産システムユニット内
第39回　農薬製剤・施用法シンポジウム事務局
吉田隆延
〒331–8537　埼玉県さいたま市北区日進町1–40–2
E-mail: seizai@affrc.go.jp
TEL: 048–654–7074
【参加申込，参加費に関するお問い合わせ】
東邦化学工業(株)　追浜研究所　農業助剤研究室内
第39回　農薬製剤・施用法シンポジウム事務局　参加申込担当
種　和彦
〒237–0062　神奈川県横須賀市浦郷町5–2931
E-mail: seizaisympo@toho-chem.co.jp
TEL: 046–866–5736
【技術研究発表及びプログラムに関するお問い合わせ】
日産化学(株)物質科学研究所内
第39回　農薬製剤・施用法シンポジウム事務局　技術研究発表担当
釜谷拓和
〒274–8507　千葉県船橋市坪井西2–10–1
E-mail: seizai39@nissanchem.co.jp
TEL: 047–465–1116

第42回農薬残留分析研究会

日　時：令和元年10月31日(木)～11月1日(金)
場　所：コンパルホール（文化ホール）
http://www.compalhall.jp/
〒870–0021大分県大分市府内町1丁目5番38号
交　通：JR大分駅から徒歩5分
テーマ：農薬残留分析に係る国際標準試験法の実際
研究会プログラムの最新情報，参加申込み，発表申込みならびに企業展示申込み方法は，学会ホームページをご確認ください．本年も多くの皆様の参加をお待ちしております．
第42回実行委員会一同
連絡先：飯島和昭（一般財団法人残留農薬研究所）E-mail: iijima@iet.or.jp

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」出版のご案内

日本農薬学会では，精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています．2003年に初版を発行以来，好評を博して改訂を重ねてまいりましたが，この度，改訂4版を上梓する運びとなりましたのでお知らせします．改訂4版では，前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ，最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで，初学者の方にも，より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました．また，携行性を高めるために軽量化を図りました．前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として，さらに，食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても，農薬の規制についての理解の一助となるようお役立て頂けると幸いです．定価は3,000円です（送料別）．

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて，以下の日本農薬学会事務局に 氏名，所属，メールアドレス，電話番号，送付先住所，購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）等をご連絡下さい．また，メール等の件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい．折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので，振込みをお願いします．詳細は，学会ホームページもご参照ください．

日本農薬学会事務局：

〒114–0015 東京都北区中里2丁目28番10号　日本植物防疫協会内
FAX: 03–5980–0282
MAIL: nouyaku@pssj2.jp
学会HP: http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html

講師派遣のご案内

日本農薬学会では，一般市民や農業，教育関係の方々に農薬に関する知識や食料生産，食品安全，環境影響などに関する理解を深めていただくことを目的として，専門家を講師として派遣しています．派遣講師が行う講義の内容は，ご要望にできる限り沿うようにしたいと考えておりますので，遠慮なくご相談ください． 本活動にご興味がございましたら，学会ホームページ（http://pssj2.jp/overview/semina/haken_16.html）をご参照のうえ，日本農薬学会事務局にご連絡ください．

発行所：日本農薬学会
〒114–0015　東京都北区中里2–28–10
一般社団法人日本植物防疫協会内
TEL: 03（5980）0281　　FAX: 03（5980）0282
E-mail: nouyaku@pssj2.jp